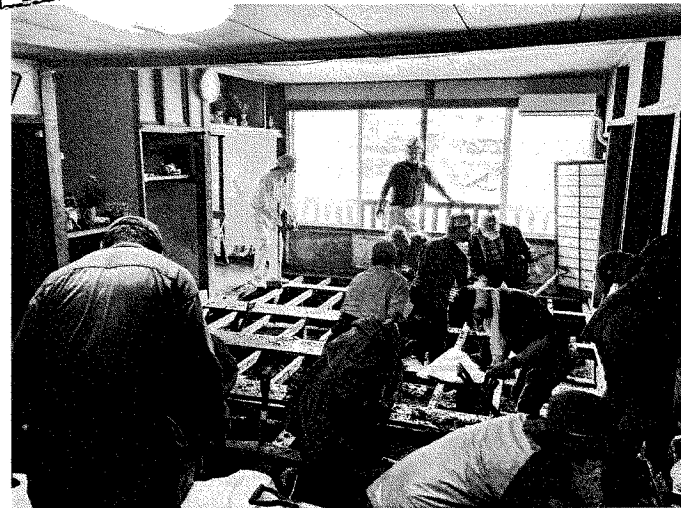


ボランティア活動 始まる

泥だし片づけに汗を流す

珍珠川が2度にわたり氾濫し、多数の旅館、商店などが被害にあった天ヶ瀬温泉で12日、2百人を超えるボランティアが泥だし片づけに汗を流しました。

日本共産党西部地区委員会もボランティアを募り、12日は日隈市議ら9人が2グループに分かれて活動しました。



▲旅館での泥だしに汗を流すボランティア（12日、天瀬）

とともに、旅館床下に入り込んだ大量の土砂を土嚢に詰めて外に出す作業をしました（上の写真）。他の4人は、旅館の玄関フロアの清掃作業に汗を流しました（下の写真）。

旅館の経営者は「被害の大きさに途方に暮れていたところ、今日はたくさんボランティアが駆けつけてくれた。本当に助かる」と話しました。一方で、ある経営者は「床を剥がして泥だししよう」と助言されるが、その後の修理にどこまでお金が出るかもわからない。これからどうするかも決まっていない」と不安をもらいます。

日隈市議は「心が折れない対策、希望がもてる直接支援が必要だ」と語ります。16日は被災した事業者のみなさんと「温泉街復興に向けた懇談会」を計画しています。

事業継続への直接支援を

施設復旧に国庫補助が必要

日本共産党の志位和夫委員長は9日、国会内で記者会見し、温泉街などが新型コロナウイルスと豪雨災害という二重の打撃を受けるも、事業継続に向けた直接支援を強く求めていきたいと表明しました。

志位氏は、熊本県人吉市の商工会議所との懇談で、「これ以上の借金はできない」「融資では対応できない」と訴えられたことを紹介。「休業要請がようやく解除されて、予約を取り始めたところに豪雨が襲ったという二重の打撃を受けています。これまでの災害にない重大な打撃です」と指摘しました。

このもとで、政府に特別の方策を求めたいとして、①中小企業な

どのグループ施設復旧費を国庫で補助するグループ補助金の速やかな適用とともに、②事業継続のための直接支援が必要だと強調。「心が折れてしまう」「融資ではダメだ」との切実な声がある。直接支援を強く求めたい」と語りました。

大谷敏彰、日隈知重両市議は、堤栄三、猿渡久子両県議とともに8月28日、関係省庁に要請を行う計画です。

グループ補助金とは（熊本地震に対応した事例）

【目的】

- 被災した中小企業者の施設・設備の復旧を支援（補助率4分の3）

【制度の概要】

- 中小企業2社以上がグループを構成して復興事業計画を作成。
- 県の認定を受けた場合に、グループに参加する中小企業が、施設・設備の復旧にかかる支援を受けられる制度。

梅雨前線
豪雨災害

九州豪雨
被災地